

## 第2回 本の取り扱い編

求むべきは、

究極のダメージレスと

溢れるホスピタリティ。



文・イラスト/カジ

Cool Librarian

華麗なる図書館利用者のための

# クールリブラー講座

『クールリブラー』とは

図書館の利用マナーの遵守はもちろん、よりクールで上質なりがら利用方法を日々模索する。それが『クールリブラー』だ。説明書を熟読してから電源を入れる慎重派。

正確なピンセット別きが重要な『オペ』。まかり間違ってもメスを使うことのないよう。驚異的なスピードで読破し教授まで上りつめる『財前』や、時間短縮のためあとがきだけ読む『なつやすみ』なども有名。

ブルトニウム、日米関係、他人の家のトイレなど、世の中には丁寧な扱われなければならないものが多くある。中でも図書館の本は最も丁寧に扱わなければならないものの一つだ。それは人類の共有財産、地球、太陽と同様の価値を持つものだから。クールリブラーが目指すのは、些細な傷や汚れさえ許されない究極のダメージレスだ。ゴム手袋、マスク、手術帽で挑む『オペ』。患者（本）への負担を極力押さえるため、ページ捲りはピンセットでしなやかに。オペ中は極めて冷静に努めるが、本の内容に興奮してきた時は「汗！」で対処だ。本に触れることなく、閉じられた本を透視する『ユリゲラー』。透視能力の覚醒にやや時間を要するものの、体得すれば本を全く傷つけないどころか、パッケージ包装された本や袋とじ付録を開封せずに閲覧可能となる。

家に持ち帰った本は、無造作に机に置いてはいけない。ご両親に紹介し、夕食を共にするなど、本に十分にくつろいでもらうよう、心からのおもてなしを。外見の傷だけでなく、内面をモケアするホスピタリティ。本の取り扱いの極意はそこにある。



『ユリゲラー』は透視能力を身につけることから。さらに本から異物や現金を取り出したりする『ゼロ』は上等テクだが、すでに読書ではない。